

(議長)

次に、塙本議員の発言を許可致します。

「塙本議員」

議長。

(議長)

塙本議員。

「塙本議員」

えー今定例会、私から、えー4問。その内2問が、あのー教育分野の質問となりますので、よろしくお願ひします。

まず1問目であります、教育べん、現場におけるパソコン資材の更新についてであります。えー基本的には、児童、生徒へは、ま、色々なセキュリティ等々の問題も含めて、あの定期的に更新されているというふうに思われますが、教職員の更新が後回しになつているように伺っております。

まあ現場では、計画的な更新が求められている状況の中で、今後、江差町としては、どのような対応を考えているのかお伺い致します。

「教育長」

教育長。

(議長)

教育長。

「教育長」

塙本議員の1問目、教育現場におけるパソコン機材の更新についてのご質問にお答え致します。

各小中学校の教職員用として、現在、配置しているノートパソコンは、令和元年度に全ての教職員に対し、小学校61台、中学校39台、計100台を整備し、約7年が経過しております。一般的なノートパソコンの買い替え目安は、5年程度とされており、現在は、その期限を超過している状況にあります。

各小中学校からは、パソコンの不具合等により公務に支障が生じていること、セキュリティの担保が出来ていないことから早急に更新して欲しいとの要望を受けており、教職員用パソコンの更新については、喫緊の課題の一つとして捉えております。

教育委員会と致しましては、必要な台数やパソコンの機種等について整理した上で、町長部局と協議を行つて参りますので、ご理解をお願い致します。

「塚本議員」

議長。

(議長)

塚本議員。

「塚本議員」

えー町長部局としっかり対応して行きたいと言う答弁頂きましたので、えー今後の対応をよろしくお願ひしたいと思います。

2問目の方の質問に入らせて頂きます。えー文科省が実施している全国学力テスト、これは、あのー以前にも質問したこともありますけども、えーこれについて、檜山管内の概要等々が出ておりまして、えー国語、算数とも全国平均を上回るって、道内14管内の中でもトップの正答率を記録しているように伺っております。

えー2025年の全国学力学習状況調査で、檜山管内では、特に数学と理科での正答率が低めで、基礎的な知識、技能の定着が、は、一定程度の成果が見られているんですが、ま、思考力であったり、判断力、表現力を問う記述問題については、なかなか厳しいという状況になっているように伺っております。

えーそのあと、町単独の部分については、ま、ちょっと私、失念しましたけども、ま、町広報等々、あのーホームページにも載ってましたので、えー発表されて無いという部分については削除させて頂きます。

まあこれらを踏まえて、教育委員会では、これらの学力、全国学力テスト、うー、の、おー状況をどのように江差町としては評価しているのかと、これを受けてどのような対応をしているのかお伺い致します。

「教育長」

教育長。

(議長)

教育長。

「教育長」

塚本議員の2問目、文部科学省が実施している全国学力テストについてのご質問にお答え致します。

全国学力学習状況調査は、個人の成績を評価するテストとは違い、全国的な学力や学習状況を把握し、教育施策の成果と課題を検証改善するために文部科学省が毎年実施している調査です。

令和7年度調査における江差町の結果につきましては、11月号広報に概要を掲載し、

詳細についての、については、町のホームページにおいて公表しているところでございます。

江差町の本調査の結果についてですが、小学校6年生の国語は全道平均と同じで、全国平均をやや下回っております。算数は全道平均を上回っていますが、全国平均を下回っています。以下においては、全道平均と全国平均を大きく上回っております。

また、江差町の中学校3年生の国語は、全道平均と、ぜい、全国平均を大きく上回っていますが、数学と理科は、全道平均と全国平均をやや下回っている結果となっております。

各小中学校においては、毎年度、学校ごとに経営方針を定め、教育目標や目標達成のための指標等を的、明確にし、具体的方策を教育課程や教科指導等の項目ごとに掲げ、取り組みを進めているところでございます。

加えて、江差町の全国学力学習状況調査の結果を受けて、教育委員会では、江差町学力向上対策会議を設置し、え一各学校から教頭と担当教員に出席頂き、結果の共有や誤った回答の分析、各小中学校の学力向上の取り組みを、取り組みを情報交換し、それぞれの学校へ持ち帰り、日々の学習指導に生かしているところでございます。

全国学力学習状況調査の結果を公表することで、保護者や学校、地域、行政が学力の状況や課題を共有し、子供たちの更なる学力向上と学習状況の改善に繋がるよう、教育委員会と、各小中学校や家庭と連携して取り組みを進めて参りますので、ご理解をお願い致します。

「塚本議員」

議長。

(議長)

塚本議員。

「塚本議員」

え一、まあ全国学力テストについては、まあ色々な課題も有るやに伺ってますが、あの一黙ってても、ま、これだけ進学率が上がってきますと、高校になると、もう詰め込みの学習が非常に圧倒的に多くなるというふうに認識しております。

え一小学校、中学校における、う一学習の中身については、え一、ま、テストのための勉強と言うよりも、基礎的な学力をしっかりと身に付けると言う部分に重点を置きながら、まあ、あまり過度に点数に、え一敏感にならない、敏感にならないと言いますか、あの一右往左往すると言う事じゃなくて、基本的な学力の向上を目標に、え一しっかりとやって頂ければなと思います。

続いて、次の質問に入らせて頂きます。

え一単身高齢者の課題についてであります。え一ここ、質問にも書いておりますが、単身高齢者の福祉の課題については、社会的孤立、介護人材の不足、経済的困窮、認知症や

意思決定機関の困難など多岐に渡ります。

え一江差町においても、お一包括の方では、色んな部分で大変、このご苦労されているのかなと思っていますし、え一私の親族も大変お世話になってますし、こういう状況下における難しい課題であると言う事は、重々理解しているつもりであります。

え一単身高齢者は今後、全国では680万世帯に達して、まだまだ増えるという状況にありますし、まあ江差も当然、深刻な問題であります。え一江差町で、の人口の推移を、お一見ますと、令和6年度高齢化率41.5%、すごい高い数字。まあ江差町だけではないんで、近隣町村も同じように高いんでしょうけども、かなり高くなっていますし、え一独居老人の場合をちょっとと、あの一教えて頂きましたところ、千、令和6年、1,096戸、え一世帯全体の28%が独居老人、びっくりしますよね、この数字。

ま、これらに対応するために、え一まあ町の包括、だけに、これらの課題が対応出来るかと言うと、当然、私は出来ないと思っています。え一地元にある社会福祉協議会、或いは町内会、色々な団体と連携を取りながら、江差を最後のす、す、あの一終の棲家として選んで頂いている皆さん、幸福で終末を迎えるような体制をしっかりと作って行くと言う事が大きな課題となっております。え一これらについて、え一町で今後、考えている方策等ありましたらお伺い致します。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」

塙本議員の3問目、単身高齢者の課題についてのご質問にお答え致します。

初めに当町の単身高齢者世帯の推移、推移についてでございますが、先ほど塙本議員がご指摘の通り、令和6年度末においては1,096世帯、全世帯に対する割合は28.2%となっており、今後も増加していくものと推測しております。

次に、単身高齢者への対応についてでございますが、地域、医療、介護、生活支援などを繋ぎ、誰もが住み慣れた地域で住み続けられる地域包括ケアシステムの構築を推進しており、具体的には、配食時見守りサービス、緊急通報システム、民間団体の方々と共に進めるチーム江差や、町内会、民生委員の方々による見守りなどがございます。

また、生活支援体制整備事業と一般介護予防事業を中心に、集いの場、地域イベントなど、高齢者が参加できる居場所作りを推進し、繋がり場所の確保を通じて、孤立防止にも取り組むほか、社会福祉協議会と連携し高齢者の権利を守る成年後見制度の推進にも取り組んでいるところでございます。

今後も高齢者の方々が安心して老後を迎えるよう事業を推進して参りたいと考えておりますのでご理解頂きたいと思います。

「塚本議員」

議長。

(議長)

塚本議員。

「塚本議員」

えーなかなか具体的にどうするかって言うのは、非常に難しい部分があるんですが、えー私がちょっと調べたところでは、あのー、まあ道内でもすごく取り組みが進んでいるところがあります。

えー高齢者向けサポート事業、あのー後志の京極町で実施しております、行政、社協、住民が参加する総合事業委員会、こう言うのを立ち上げております。植木鉢会議を通じて、各種、えー自立支援型地域ケア会議を実施しているので、ま、これらの部分も非常に参考になるんじゃないかなと思ってますし、また、近年、シスターズ、シスターズフッドなどの位置付けもあり、えー女性グループが身元保証であったり、生活支援、まあ葬儀を含む包括的なサポートまでやってるようなグループ活動も、おー出来てきていると言う先進事例も伺っております。

えー具体的にこう言う地域の色々な組織を巻き込んだ総合的な、えーこれらの課題に解決する委員会、こういうものも立ち上げて対応すべきと考えますが如何でしょうか。

「高齢あんしん課長」

高齢あんしん課長。

(議長)

高齢あんしん課長。

「高齢あんしん課長」

塚本議員のご質問にお答え致します。

えー様々な地域で、えー高齢者の孤立等に、えー即した事業を行っていると思いますが、えー当町におきましては、高齢者の見守りネットワーク、チーム江差と言うのがございます。

えーこの事業は、平成25年より開始しており、地域住民、関係者の皆様の協働により、高齢者に何らかの異変等が、えー発見された時には、迅速に対応できる体制を、えー確保することを目的とした事業で進めております。えー加盟店は、現在、116店舗の事業の方、事業所の方に入って頂いており、今年度4店舗増え120店舗となっております。去年の実績では、6年度は協力要請が7件、加盟店からの相談、情報提供は32件に上っております。えー高齢者の見守りネットワークの取り組みとして、民間事業者の皆様

に、日頃の業務の範囲内において見守り活動にご協力頂いているものであります。え一普段から地域の、普段から地域に密着して、地域の皆様と関わる機会が多い事業者の皆様にご協力頂くことは、早期の、え一異変把握や地域の安全に繋がる重要な取り組みと思い進めております。

え一今後につきましても、行政のみで高齢者の見守りを完結させるのではなく、地域の皆様や関係団体の皆様とともに、ご協力頂きながら地域で支え合う体制をさらに充実して参りたいと考えておりますので、ご理解のほどお願い致します。

「塙本議員」

議長。

(議長)

塙本議員。

「塙本議員」

え一なかなか、あの一これで行きますよっていうのが難しい事業でありますけども、まあ独居老人の皆様方が自立支援出来るような体制、まあこれについては、まだまだ、あの一どういう在り方がいいっていう部分については、え一明確な答えは無い、無いと思いますけども、ま、先ほど言ったように、ま、あの一非常に地域の色んな団体を巻き込んで、やられている町村もあります。是非、参考にして、江差町でも取り入れるべきは取り入れるというような体制で臨んで頂ければと思います。以上で3問目、終わらせて頂きます。

え一最後の、お一質問であります。これ、これまで何問も出るので、私は特化して、あの一ヒグマ出没対策について改めてお伺いしますけども、え一今年4月以降、クマによる全国の被害者は、え一私がこの質問を出す時点ぐらいの時では196人で、前年の2倍以上、死亡者数は13人と深刻な状況になっております。

江差町では、担当課や、ま、地元のハンターの見守りや駆除対策員により、ま、被害報告等は有りませんので、え一この、これらの、え一担当されている方々のご苦労に敬意を表します。

ま、例年に無く、山林における、あの一山林から、山林ですね、栗やドングリの不作が、あの一被害地の出没の要因と言われております。まあ先ほどの質問の中では、まあ広葉樹を山の一定程度の奥地のクマの生育地に植えてはどうかと言う話もありますが、まあ市街地に、この一クマの餌となる、特にクルミですね。え一姥神神宮の裏にかけて中歌町の沿いに、あの一クルミの木が結構あるんですよ。で、クマはご存知の通り、え一1回餌が有るっていうのを認識したら無くなるまで出て来る。これ秋田とか、あの一岩手なんかでも、ま、柿の被害なんかでもリアルにテレビで放映されている事例もあります。ま、江差町においても、明らかに餌となる部分が江差の町の中に有るって言う事は、クマが、あの一餌が無くなるまでここに出て来るっていう可能性が有る訳で、ま、あの一民有地の、

まあ関係も有るので、役場が勝手に木を切るって言う事には、なかなかなりづらいし、ま、担当課の情報によると、クルミは種が落ちてから非常に生育が早くて、何回切ってもおがって来るんですよねー、みたいな話も聞いてますけども、最初のでかい木については、一定程度、行政も指導しながら、一定程度、あの一町場の中にあって、利用していない未利用の、邪魔だってば失礼ですけれども、そういうクルミは、あの地権者の協力を得ながら積極的に伐採して、あの一次から出てくる蘖ですか、そういうものについても、地権者に協力頂きながら、クマのエサにならない、そういう地域を作り出さないという、え一対策も必要となります。

ま、これらについて、え一担当してる、ま、あの一担当しているという、江差町としては、どのように市街地における、こういう餌になりうるクルミのような木の伐採を考えているのかお伺い致します。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」

塚本議員の4問目、え一ヒグマ出没対策についてのご質問にお答え致します。

塚本議員からヒグマの市街地への出没を防ぐため、クルミなどの無用な誘引樹木を伐採すべきとのご提案を含めたご質問でございました。

飯田議員の一般質問に対する答弁の中でも述べさせて頂きましたが、北海道ヒグマ管理計画第2期が令和4年に策定され、計画の中でも人とヒグマとの空間的な棲み分けを図るゾーニング管理を推進して行く事が自治体に求められております。

え一ゾーニングは、地域を排除地域、防除地域、緩衝地域、あ、失礼しました、緩衝地帯、コア生息地の4つのゾーンに分類するもので、排除地域は市街地などヒグマの侵入を許さないエリア、防除地域は農作物被害などを防ぐためヒグマを寄せ付けないエリア、緩衝地帯は人里への侵入を未然に防ぐエリア、コア生息地がヒグマの健全な個体群を維持するエリアに設定し、ゾーンに応じた管理と対策を進めて行くものでございます。

当町におきましては、今年度中にゾーニング計画を策定し、市街地における誘引樹木の伐採を含め、ゾーンに応じた対策を計画的に進めて参りたいと考えておりますのでご理解頂きますようよろしくお願ひ致します。

「塚本議員」

議長。

(議長)

塙本議員。

「塙本議員」

え一今、町長から発言された対策、え一地権者の協力も非常に不可欠になりますので、え一地権者との協力を得ながら、しっかり次年度は不要な、そういう餌になるような樹木の伐採を積極的に取り進めて頂きたいと思います。

以上で質問を終わります。

(議長)

以上で塙本議員の一般質問を終わります。

午後1時まで休憩致します。

休憩 11:57